

※インターネット「はらまち九条の会」で、「九条はらまち」の全号を見ることができます。



# 九条はらまち

「はらまち九条の会」ニュース **No. 6 5**  
2008(平成20)年6月6日(金)発行

<1944(昭和19)年6月6日は、「史上最大の作戦」とよばれたノルマンディー上陸作戦の日>  
第二次世界大戦末期、アメリカ・アイゼンハワー元帥指揮の下、米英仏の連合軍の輸送船艇約4000隻、兵員約18万が、北フランスのノルマンディー半島に上陸し、ロンメルが率いるドイツ軍を劣勢に追い込んだ。一方、東からはソ連軍が猛攻しドイツ敗戦の流れは加速され、8月にパリは解放された。史上最大の作戦です。

「憲法9条を守ろう」の大看板をカンパ(10500円)で建立しましょう!  
文言も決定! 建設経費の**カンパのご協力**をお願いいたします!



## 世界は憲法9条をえらび始めた

あなたは9条を変えて戦争に行きますか?

はらまち九条の会



- 看板に描く「文言」は上のように決定しました。日本の「憲法9条」は日本人自身がその意義や価値をないがしろにしている間に、今や世界各地で21世紀を先駆ける理想の平和憲法として注目され、アジアや南米やアフリカの諸国の憲法に採り入れられています。しかし今、日本はあえて「9条」を捨て去り、「戦争をする国・日本」になってしまうのか危惧されます。
- 看板の建設予定経費は25万円なので、**10500円以上のカンパをお願いしています。**6月24日現在、45名から約6万円が集まっています。ご賛同の方は恐縮ですが、各事務局員に直接お届けください。お名前や金額は公表せず、領収書はご希望により発行します。
- 看板は **○原町区錦町泉道“ココス”さんの向かい側に立てます。**  
○大きさは幅1m20cm・横6m程度。プロの看板屋さんへ依頼します。  
○完成予定は、63回目の終戦記念日の2008年8月15日です。

### 。やればできる! 日本も“クラスター爆弾”禁止条約合意

◆不発弾が地雷のように戦闘後も一般市民を殺傷し続ける「悪魔の兵器」・クラスター爆弾、それをほぼ全面禁止する条約案が、5月30日アイルランドのダブリンで約30カ国により合意された。しかし、主要生産・保有国のアメリカ・ロシア・中国が参加せず、今後の課題です。◆日本も国際世論におされてようやく合意し、自衛隊が保有するクラスター爆弾を数百億円かけて廃棄する。またまた軍事費に血税を浪費します。◆NGO(非政府組織)の活動で成功していますが、次は「劣化ウラン弾廃棄」、さらに「核兵器の全面廃絶」、「軍隊の廃止」「軍隊の災害救助隊変換」だって決して夢ではありません。

#### しかし一方では、防衛目的の「宇宙基本法」が成立

■しかし、宇宙開発目的を「平和利用」と限定した1969年の国会決議を転換し、防衛目的に広げる「宇宙基本法」が5月21日、自民・公明・民主党などの賛成221票、反対14票の圧倒的多数で成立しました。■自衛隊の衛星保有に道を開き、偵察衛星やミサイル防衛に使う早期警戒衛星打ち上げなどを可能にするため。まるでCG映画のスターウォーズを夢想しています。

#### 中村哲医師「陸自、アフガン派遣なら活動を停止」

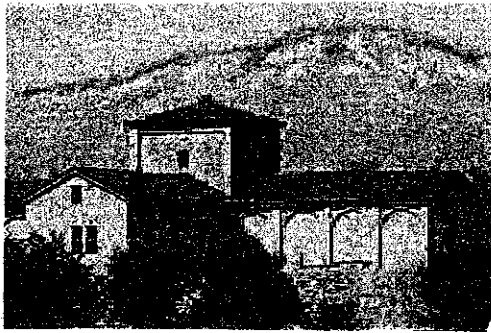
◆政府は陸上自衛隊のアフガニスタン派遣検討を始めました。しかし、パシャワールの会で20年以上アフガニスタンで医療と灌漑など農業復興支援活動をしている中村哲医師は、「アフガン派兵は愚かな反国際貢献」「アフガンはテロの巣窟ではない」「丸腰だから現地の人に伝わるものがある」「自衛隊がアフガン派遣なら、活動を停止しなければならぬ」と話しています。(6月7日「東京新聞」) <9月28日・いわき市で「中村哲講演会」開催>

八月十日(日)銘醸館で  
**第三回学習会**

○看板完成の頃の八月十日(日)、午後二時〜四時、原町区本町の銘醸館で講師を囲んで、「第三回学習会」を予定しています。お気軽にご参加ください。  
○他の県内「九条の会」では「戦争と平和展」(相馬市)、「原爆展・親子で戦跡めぐり」(福島)、映画上映会、講演会、学習会など大変活発です。

# 戦没画学生慰霊美術館

## 「無言館」へどうぞ!



浅間山を背景に、中世ヨーロッパの僧院のような建物・「無言館」

- ◆長野県上田市、山々に囲まれた田園地帯の丘の上に、浅間山を背景にし、中世ヨーロッパの僧院のような建物のなかに、アジア太平洋戦争で志半ばで戦地で命を落とした画学生30余名、300余点の遺作や遺品がひっそりと展示されています。
- ◆館主の窪島誠一郎さん（父は水上勉）が、画家野見山暁治さんと日本各地の戦没画学生の遺族を探し訪ね遺作を蒐め、「無言館（むごんかん）」として平成9年5月2日に開館されました。
- ◆絵は何も語らず、見る人も無言ですが、作者や家族の慟哭が聞こえそうな、強い衝動に駆られる不思議な美術館です。

会員のAさんからのお薦めで「無言館」について紹介します。（訪ねたり、ご存じの方も多いいと思いますが、編集子も以前見学し大きなショックをうけました）

●「無言館」〒386-1213長野県上田市古安曾山王山3462  
電話0268-37-1650 年中無休

### 無念の遺作300点が語りかけるもの



中村萬平「霜子」



市瀬文夫「黒衣の婦人」

▲中村萬平は静岡県浜松市のお菓子屋さんの長男。学生結婚をしていて、妻の霜子さんを描く。霜子さんのおなかには赤ちゃんがいますが、萬平さんは自分の子供の顔も見ないまま出征し、霜子さんは出産の半月後に病死。萬平さんは「霜子死す」の電報に泣きあかし、中国で26歳でさみしく戦病死します。この絵はその息子の暁介（きょうすけ）さんが、父母の唯一の形見として大切に守ってきました。

▲市瀬文夫（いちのせふみお）は、大正3年に長野県飯田市生まれ。東京美術学校（東京芸大）に入学、首席で卒業。和歌山県の中学校に勤務するが、15年に出征。妻・文枝はその時懐妊していた。19年2月、ニューギニアで29歳で戦死。美術学校時代の19歳の市瀬が故郷の生家の近くに住んでいたある美しい女性をモデルに描いたのが、この「黒衣の婦人」で、市瀬の実力が表れている作品とされています。モデルの女性は、85歳の女流の日本画家として健在で、市瀬さんを思っています。

▶伊沢洋は栃木県の大変貧しい農家の二男。東京美術学校（東京芸大）卒。出征の1カ月前、自分の家族をいかにも裕福そうに感謝と願望を込め空想して描いた。26歳でニューギニアで戦死しますが、届いた骨箱は一握りの砂だけで、両親は「洋は絵描きにならずにニューギニアの砂になって帰ってきた」といつまでも声をあげて泣きました。

▼蜂谷清は千葉県佐倉の商家の長男。自分を可愛がってくれていた優しい祖母のなつさんを出征の当日まで感謝を込めて描いた。昭和20年7月、フィリピンのルソン島で、22歳の若さで戦死します。「上手に描いておくれよ」という祖母なつさんの声が聞こえてきそうな絵です。



蜂谷清「祖母の像」



伊沢洋「家族」

- 絵や説明は、窪島誠一郎著『「無言館」にいらっしやい』ちくまプリマー新書¥740より。
- この紙面はカラーでないのが残念です。●「無言館」については、テレビや新聞での紹介、関連本もたくさん出版され、また全国各地や福島県内でも巡回展が開催されています。
- お隣の相馬市の「相馬中学生（現・相馬高校）の遺作もあるはず」と小耳にはさみ、調べてみたところ、実在し作品も残されていることが分かり驚かされました。次号で紹介させていただきます。